

P-A-2 敗血症性急性肺障害に対する PMX-DHP の有効性

駿河台日本大学病院 臨床工学技士室¹日本大学医学部 救急医学講座²岡本一彦¹ 櫛 英彦² 三木隆弘¹ 中原 淳² 斎藤 豪²

【はじめに】近年、sepsis による急性肺障害の治療に際して血液浄化療法の有用性が報告されている。そこで我々は、急性肺障害を来した sepsis 患者に対するエンドトキシン吸着療法 (PMX-DHP) の有効性を検討した。

【対象および方法】平成 12 年 6 月～平成 16 年 2 月に当院救命救急センターにおいて ALI および ARDS を併発し、東レメディカル社製 PMX20R を用いて PMX-DHP を施行し救命し得た sepsis 患者 13 例(男性 11 例、女性 2 例、平均年齢 62 ± 15 歳)を対象とした。施行条件は、施行回数を 2 回、施行時間を 3 時間として全例に行った。対象を PMX-DHP 施行時のシベレスタットナトリウムハイドレート使用の有無により、単独使用群(A 群)7 例と併用群(B 群)6 例に分け、各群の平均年齢、APACHE II score、PMX-DHP 開始前、24、48、72、96、120 時間後の P/F ratio を検討した。

【結果】平均年齢は A 群： 62 ± 10 歳、B 群： 62 ± 20 歳、開始前の APACHE II score は A 群： 22 ± 4.0 、B 群： 20 ± 6.0 であった。P/F ratio の平均値は、A 群が開始前： 228 ± 68 、96 時間後： 308 ± 77 ($p < 0.04$)となり、96 時間以降は有

意に改善した。一方、B 群では開始前： 204 ± 82 、72 時間後： 313 ± 123 ($p < 0.03$)となり、A 群より 24 時間早く有意差を認め、72 時間以降は有意に改善した。導入時の APACHE II score は、両群間に有意差を認めなかったが、120 時間後では A 群が 19 ± 2.7 、B 群が 14 ± 5.9 となり改善傾向を示した。特に、B 群においては導入時と 120 時間後の測定値で有意差を認めた。

【考察】我々は PMX-DHP の導入基準を、全身酸素代謝が保たれているが、組織酸素代謝障害が発生している早期の sepsis 患者に適応している。さらに、敗血症性急性肺障害の治療に際しては、PMX-DHP の早期導入、感染巣のコントロール、抗生物質の選択、適切な人工呼吸器の設定が重要と考えている。以上の治療より P/F ratio が改善したのは、PMX-DHP が活性化好中球による生体反応を抑制した可能性が示唆される。

【結語】sepsis による急性肺障害の治療に際して、PMX-DHP が sepsis 患者の肺酸素化能を改善する効果が明らかとなった。一方、併用では肺酸素化能のみならず重症度を改善する効果があることが明らかとなった。